

第 4 回災害保健医療マニュアル調整会議を共同開催しました(2013/10/20)

場所：フクラシア東京ステーション（東京都）
テーマ：「発災直後に被災地入りした医療チームが行うこと」

10月20日（日）に第4回災害保健医療マニュアル調整会議を東京にて上原鳴夫名誉教授と共同開催しました。これまでに集められた各学会、研究機関、医師会・保健師会・保健所長会などのマニュアルの比較調整を行い、災害時にワンストップで医療対応マネジメント、診療のマニュアルが入手できるように国立保健医療科学院の全面的な協力を得て、12月にはそのサイトがオープンする見通しになっています。

今回は、発災後1週間ぐらいの人的・物的医療資源がほとんどないときに、被災地に入った医療チームがどのように活動すべきかに重点をおいた話し合いとなりました。医療対応は市町村・県の災害対策本部において災害保健医療部門をたちあげ、災害保健医療コーディネーターが中心となって、医療対応マネジメントにあたる方向性が確認されました。その際にメンタルヘルス、感染症、高齢者、乳幼児・妊産婦、要介護支援者などの災害弱者への対応を調整する中核のメンバーが決定されました。また、実際の診療については、症候ごとに専門診療につなぐまでのエビデンスに基づく簡易なマニュアルの作成を日本プライマリケア連合会が中心となって作成する方向性も確認されました。

災害保健医療対応をするうえで、最も重要なのは医療・保健・福祉のニーズをいかに把握し、情報を共有化し、速やかに対応するかであり、そのためには最初に入ったチームが職種に関わらず避難所とそこにいる避難者のニーズを把握し、災害医療対策部門がすみやかに情報を共有できるシステムを構築するために、避難所の情報をもっとも把握する立場にいる保健師会の主導で、避難所アセスメントシートが確定されました。ただ、発災直後にあまりに多くの事項を記入することは困難であるため、早期のアセスメントシートについては改善することも確認されました。今年度中に原案が策定される見通しです。



災害保健医療マニュアル調整会議

避難所情報 日報 (共通様式)		活動日	記載者(所属・職名)
		年 月 日	
避難所活動の目的:			
・公衆衛生的立場から避難所での住民の生活を把握し、予測される問題と当面の解決方法、今後の課題と対策を検討する。			
・個人や家族が被災による健康レベルの低下をできるだけ防ぐための生活行動が取れるよう援助する。			
避難所の概況	避難所名	所在地(都道府県、市町村名)	避難者数
	電話	FAX	昼: 人 夜: 人
	スペース密度	過密・適度・余裕	施設の広さ
	交通機関(避難所と外との交通手段)	施設の概要(屋内・外の施設、連絡系統などを含む)	
組織や活動	管理統括・代表者の情報		
	氏名(立場)		
	その他		
	連絡体制 / 指揮・命令系統		
	自主組織	有()・無()	
	外部支援	有(チーム数: 人数: 人)・無() 有の場合、職種()	
ボランティア	有(チーム数: 人数: 人)・無() 有の場合、職種()		避難者への情報伝達手段(黒板・掲示板・マイク・チラシ配布など)
医療の提供状況			
救護所	有・無 巡回診療 有・無		
地域の医師との連携	有・無		

保健師長会の避難所アセスメントシート

文責：江川新一（災害医学研究部門）